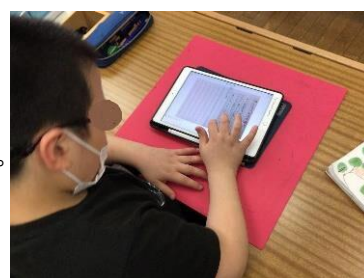


1人1台端末の活用による実践事例

学校名	岡山支援学校	実践者名	榎原 敦
実践場面 (教科)	国語		
単元・題材名	新聞を作ろう		
学習目標・ねらい	取材した事実を分かりやすく報告する。		
対象の児童生徒の 実態	上肢に麻痺があり、不随意運動も伴うため、鉛筆を握って文字(文章)を書くのが疲れる。表現したいことはたくさんあるが、鉛筆で書くと時間がかかるため、意欲が下がってしまう。		

活用の概要(使用アプリ名を含む) ※写真も掲載する

使用アプリは「カメラ」「文字入れくん」 *「文字入れくん」は無料のアプリ



- ① 使いたいプリントを「カメラ」アプリで撮影しておく。
- ② 「文字入れくん」を起動して右上の新規追加アイコンをタップする。
- ③ 撮っておいた写真を選択する。
- ④ 図1 下の+をタップし(1)、出てきた枠をダブルタップ(2)する。
- ⑤ 図2 下方へ出てきたキーボードのマイクアイコンをクリック(3)し図3の画面になったら話しかける。キーボードマークをタップ(4)する。
- ⑥ 誤字があればテキスト入力で修正後、完了する。
- ⑦ 枠や枠の角をドラッグして(5)、サイズや位置を調整する。

図1

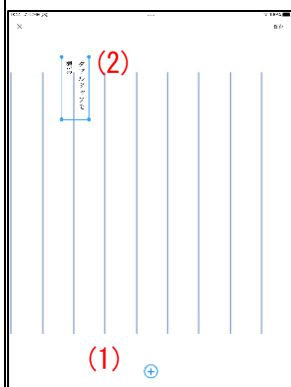


図2

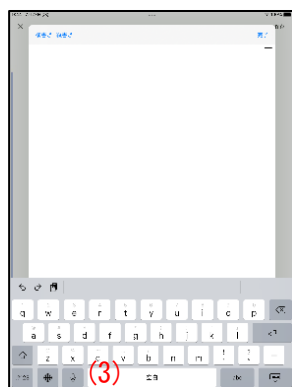
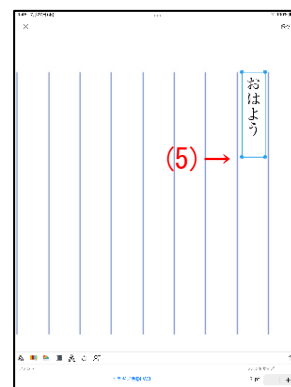


図3



図4



(4)

活用のポイント・改善策等

音声入力是从初めから端末に備わっている機能だが、以前までは使っていなかった。使い方が分ると、児童は意欲的に音声入力を使い、文章を入力していくことができた。何も言わなくても自分で試行錯誤を繰り返して、どんどん文字を入力していく姿が見られ、意欲の持続ができていた。

今回の使用アプリは「文字入れくん」だが、音声入力は別のアプリでも可能なため、使用の幅が広がる。調べ学習の際のインターネット検索、インタビューの文字起こしなど、今後の可能性を感じた。